飛馬
特
遠
882
3

旭文庫
明治三十六年十月十日購求
遺門 882 巻 北3

續本傾城飛馬始三之巻

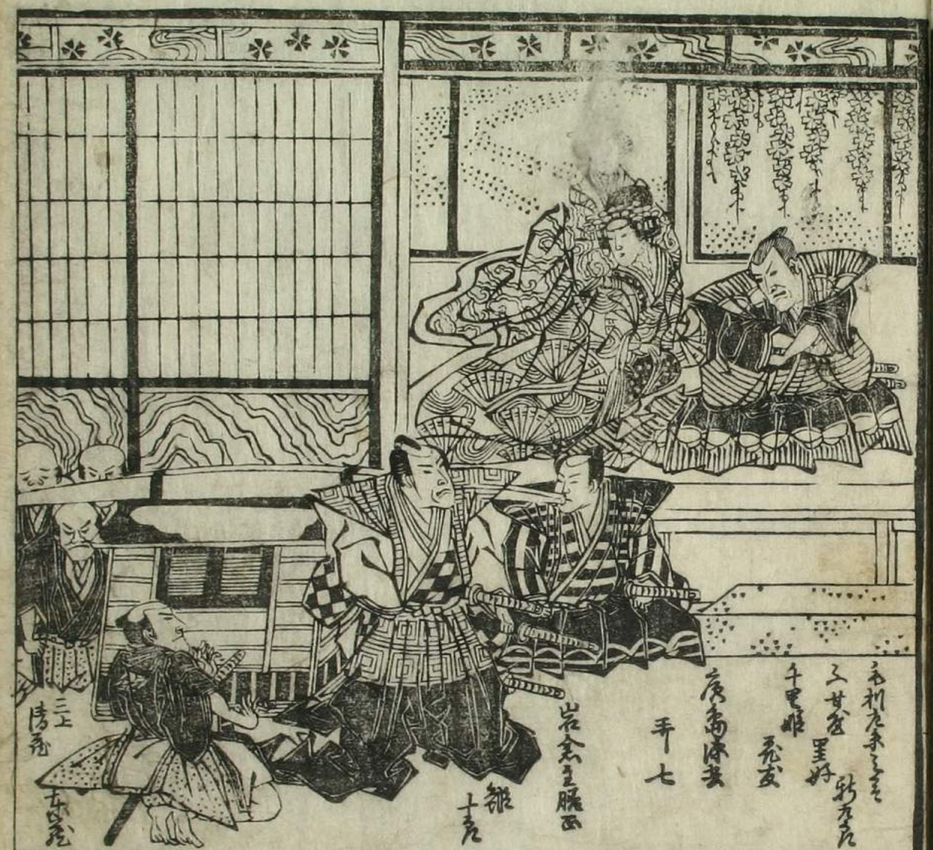
造り物一面の三重塔基見附金襖くまとりに東西の塗骨障子ゆうん結
構ふうかう却て毛利館の作さんの樂して道々前ゝトぞ〳〵こゝ
ゝ
ゝ

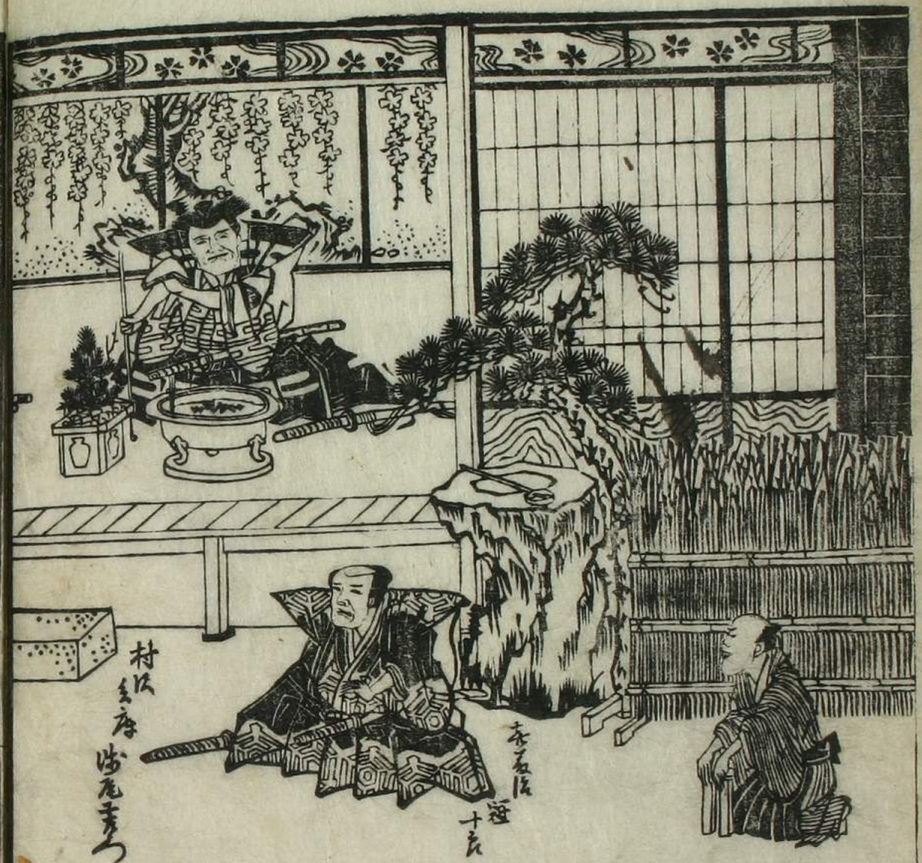
[illegible] 村沢左京亮 出羽守 先祖より如[illegible]
中一流の士郎ひ 八ケ[illegible]すいスリや皆がよつて皆間の粧縁と郎ふの家を 八ツ
ト云[illegible]上社へ出る[illegible]
大内記秘不の下知と文上使より村沢左京亮さもんび勅使も同[illegible]
四れ[illegible]さやう[illegible]
[illegible]ふ[illegible]皆一流のお郎ひ 当不和布苅の神[illegible]大三十日
夜半の間より見伝はとめ[illegible]元朝中[illegible]毛利の[illegible]天の[illegible]
集郎時神[illegible]四海安全五郎の神示と奏[illegible]方御其役目と勤ひ[illegible]
照[illegible]郎[illegible]の廊小い[illegible]酒上仕[illegible]
法[illegible]右京亮[illegible]参[illegible]八ツ作の[illegible]
郎尾[illegible]久が家の[illegible]と金一と当家の先祖毛利元

[illegible]討[illegible]と家[illegible]一戦より切あびり[illegible]と莫[illegible]の功[illegible]幼天の[illegible]
家の宝[illegible]先祖の軍功[illegible]去より[illegible]て大三十日[illegible]
礼の時刻[illegible]上仕[illegible]御[illegible]より幼吉例[illegible]御内[illegible]
八元[illegible]の辰の刻[illegible]聞[illegible]れば行幸皆くの御用控と[illegible]
今[illegible]帰[illegible]ぬ照[illegible]郎が[illegible]間一時待[illegible]て行の帰[illegible]ふ[illegible]旅[illegible]
付と一忠是[illegible]ト内[illegible]暮[illegible]
持出て[illegible]左京亮[illegible]て
次[illegible]
[illegible]年の始日のてめ[illegible]
[illegible]御上仕[illegible]と祝ひ[illegible]て文上のお[illegible]
[illegible]中[illegible]の[illegible]行とで[illegible]
金の[illegible]重[illegible]
神更[illegible]

ゑやう九郎名草の城主村沢兵庫武右衛門ようこ屋敷の縁と孫ようこ
一家中とぶいくそれぞ金銀ゆたかにらて暮すまひあいやぐこ音〜いくう
玉つきゑれ行とそ麻布トかくぐ〜ばつるゆくよりそもと三方の金ゆ元後へ入るトそ系ものまおのようすしてもあ三上佐
若衆姿上下とそ出る一若殿様を部屋とそ時美の部屋よりおぢひゆそ伴つて出行
一コレ早〜トそ若殿行と若殿ぐ出陸へ出さるさんしても行公の服装ぐ一服装
ぐどふ〜〜と一ゆヤ其家ち一ゆ〜〜大殿行も猛ぐ更へあい服装へ弱炎殿と
一ゆ〜〜天の服装い弱炎トそ家ととて ホイ一それとゆも若殿の故ち也是へ引匹
御上使の内家でめんぞくさゆん一ハウトうゑを陳一内又の内別延引ちうぐや
一サア〜〜家ち一手言沢の若殿とそ見へ一それぞちそ主人の一宝の紙系へ一ゆ
一何とゆトゆ出内系の内ち一行と行ゆも毛利照を郎逆系の云沢文へ
系つて仕ふトそ系ものと印ち記岩倉ふ猛ゆ出ちうぐ猛ゆ出ちうぐ一ヤア行ちうぐち一東山の桃桂

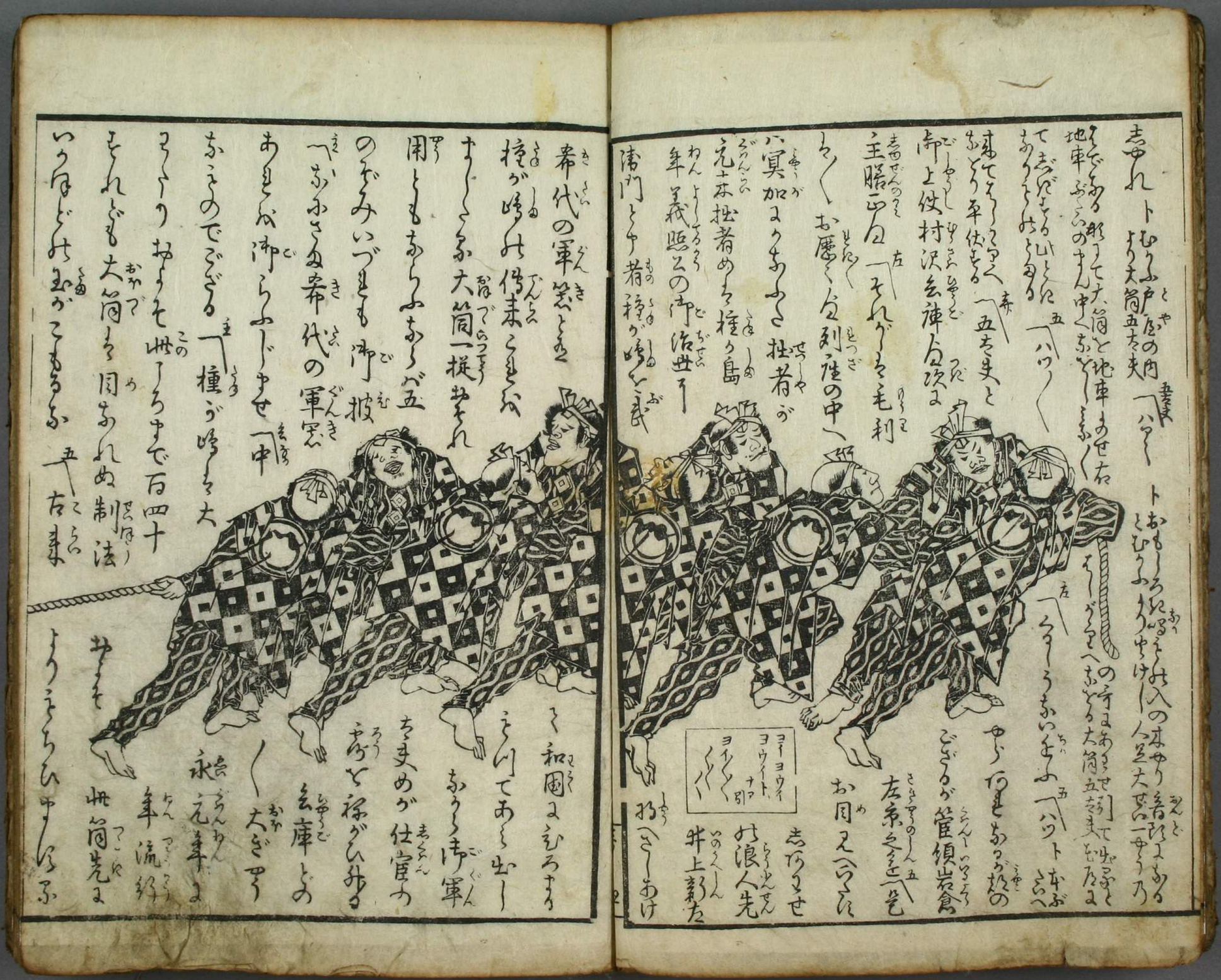
岩倉主猛四位トそ〜〜合うて納る一武羽の嚴令ふよつて九郎吹又の役目と
家ち無様ち當地ち遍留今日ち四月朝日左京殿へ年始の礼ち系りかつて
系れば上使の主殿家中の混雑家の宝も弱炎ゆ保主賠四系つて上へいち
ゆ〜〜も家中ちふいづれも安心ちれ一何ゆもせよ先〜先へ一然〜ハト二主
村沢兵庫の次郎ふ系れば御勅使ゆち系の宰相へ一扶者宰
おが名代村沢兵庫とゆ者半殿ぐ岩倉主猛殿〜ふ一いまぐ御主乃外ぬ
一ゆいよ一御岩男ふ〜〜弁るトそ廊と系ち一それ成ち左京殿の御息
女子宝殿いふ御成人でりみ仕行左系殿御子息照ち郎どの若決の妹岩姫殿
ゆち西遠ちれ主系つこぐ主ゆち〜ふ一聚略家と縁と組〜娘岩姫一今ふ
却て弱系の知ぬ婦分胡夕楽でてぐち〜ち切ゆるこいゆ一妹の系ぐ〜ちふ
系ち〜ふ系ゆ〜ぐゆトちゑ〜と下ゆの系ゆ世お系ち楼及の打聚ると又へ外結搬ナ



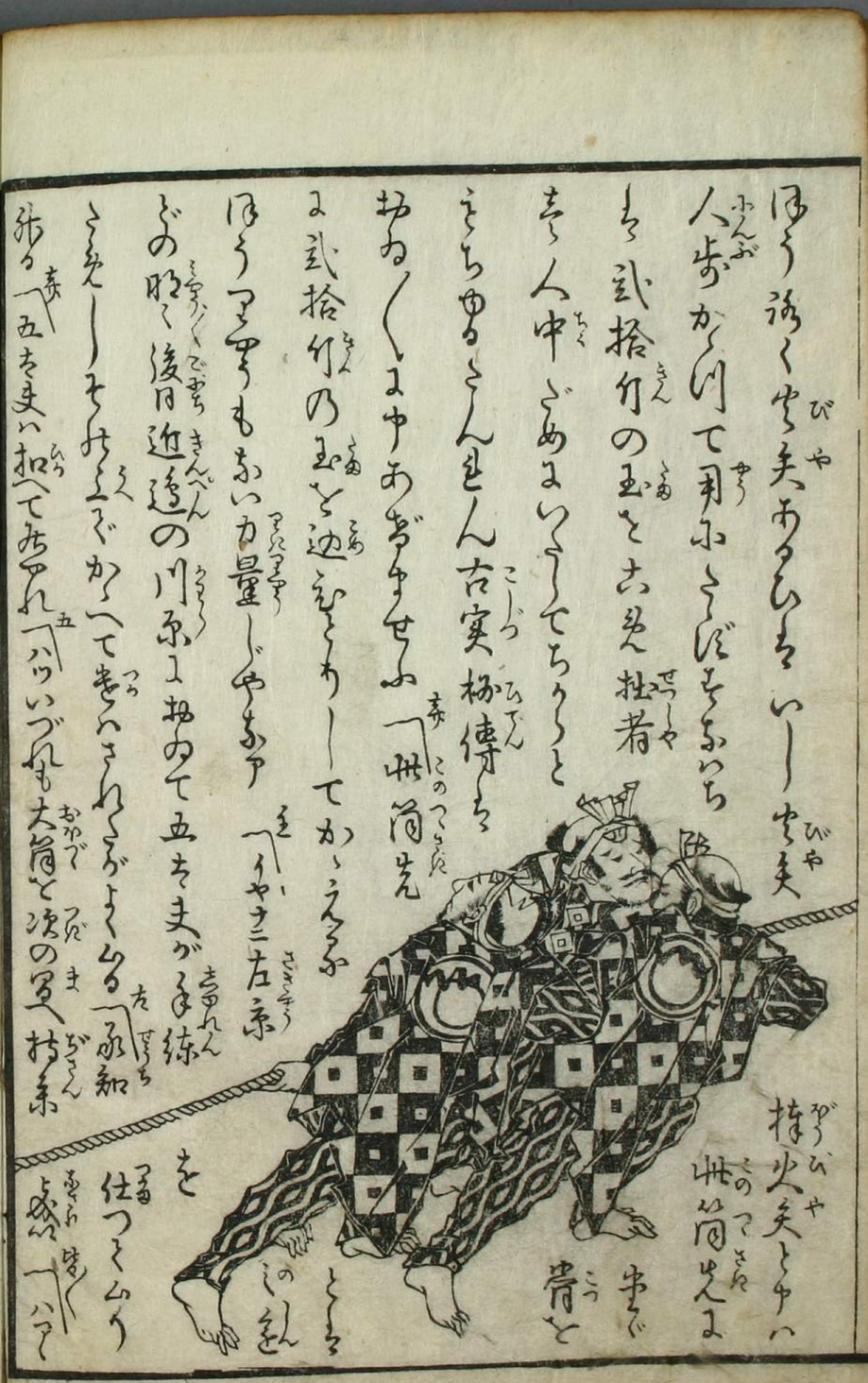


お栗でゐる併是よりも
やまとう山吹の方
ぐきめぐよくゐらふよ
ト云神とえてふハ
云度ひ入る
左京殿仁とゐらふ
ト洲内云度ふ
の今とたのもよう出し
至ル生の内へ情めんよふふ
若殿さまとおもてばつ立て
戻りさ奈物ひもよう
ぬ主膳ふ白ヒヤどふどや
トふせうぐよりふ洲時
ゆよう養者一人出る

養者
中上井種ゞ鳥の浪人
大筒五ち丈と名乗る殿
白へお目えへとひやる
通ふいぐそうひ
やせふ沖上役お入の席
ちひ目えへを叶ふとと
へハツ養ハツ
ご大筒五ち丈者ふ
ぬ出ろ寄きふ
見へといへハツ養ト
大筒五ち丈お目えへ


ヨーヨウイ
ヨウイナット引

ほう流く生矢あるひをいしゝ生矢
人歩かゝりて用ふるこびをふいち
ゝ武拾分の玉を六発拵者
きゝ人中ゞあいゝてちゝゝと
ゝちゆるゝん玉ん古実柳傳ちゝ
却ゝくゝゝゝゆあゞゞゞせふ一冊筒先
ゝ武拾分の玉を迎ゝゝゝゝてかゝゝゝふ
ほうゝゝゝもふいか量ゞゞゝゝゝ
ゞの時く後迫の川ゝゝゝゝて五ゝ丈がゝ糸
ゝゝゝゝゝゝゝゝかゝゝて生ゝゝゝゝ
歩ゝ五ゝ丈い拡てゝゝゝれ一ハいゞれも大筒と後の冥ゝ打糸



ト本ゆの人数ゝふゝゝ大筒とゝて後ゝ脇ゝゝゝゝ入と
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

たゝ言ふるく却ど骨ゐるとまをこんせぬぞ ト女たちの物うして
れめがゆまり一く村の尚絶若ふ 赤 ゆく 係吾
ゆまハテ笑止ふ万ナ 左 不和なる悔めゆろ二つ丑ト 接ふとをる子屋姫とめる
おくろけのせんまる柳出さく
柳ゆろ見ふ出り歩ゐト 出る 照 ゆア ゆ夫ゆ そゆやこゆふ 郎と
出ゆゆ殿金の御ねゞおゆる釈ゆ金ゆゞ ゆア
ゆろゆゆを迫ゆゆゆを見ゆゆゆが 夫丑ゆを夫出ゆふゆ逆ひとゆゆゆゆるゞ ト
くゆて流水法系軍八ま桃と 赤 徳系軍八見ゆゆ 軍 神更ゆ用ゆ小袖桂若
おゆゆ見出ま ひつとゆん中ふ来 殿のお若宮で中ふ入ゆゆ侍城来丑衣裳とゆんせて世ゆゆとゆはま 侍 列
若殿のお若宮 照 ゆゆゆゆ ゆゆふ系ゆたゆゆふ若宮と 侍軍 テモこゆゆゆの若
宮行ふもせよ侍城を見ゆ出てト ま桂ゆゆゆ 係 ゆゆゆゆゆゆ イや世内ゆト 結 ゆ
の衣裳と偽り侍城ゆゆと世ま桂ゆ照を郎が係 ゆと桂ゆ見屋ゆゆ

侍軍 ゆゆてゆゆ歩ゆ 主 ゆゆゆゆふゆ 軍 徳系軍八蔵言ゆゆゆ 侍 義ゆゆ
ゆ完人ゆふ 侍 一ゆ服で出ゆゆゆと屋け面てゆゆゆ ハテゆ ゆゆと
ゆゆゆも世内ふ侍城が為ゆとゆふ要性ゆ屋ゆゆ ゆゆゆゆ地獄
耳でゆゆゆ 何地獄耳ゆ出ゆふ耳ゆゆゆ 赤 ゆア面倒ふ何ゆゆゆ桂
トゆゆゆと係若宮行ゆと 侍 ゆゆ 侍軍 ゆアコリや猿ゆゆ 軍 ゆんゆゆふ
猿出ゆ系義ゆゆゆ付ゆゆ ゆゆ桂ゆ侍ゆゆゆ
侍城ゆゆ内が 主 ゆゆ生ゆゆて猿ふ成ゆゆ コリやゆふゆゆ 主 猿ふ ハテせん
げんゆるゆの拝ひ桂若のゆんゆゆせ柳のゆゆゆゆ面赤ゆく因えゆきゆゆゆ
世系ゆゆとゆんゆゆゆ行ゆゆ面ゆ郎ゆ家園と忘れほゞと ゆゆ ゆゆも沈ゆ桂
ゆゆ侍ゆゆ侍城ゆゆゆア 三 コリや ゆゆゆゆ ト逃ゆふ 係 ゆゆゆふ ゆゆ
「家子辰の上刻神拝の第ゆゆいゆゆゆゆ
行ゆゆの切腹 主 猿ふ辰天の服衣弱矣とゆひ九刃操歌の手ゆゆ進 弱

矢の筈も無知殺さ「それ迚拙者がトヌかふ「アイヤ切腹申さぬ
揉頭の下天の服衣袷義の的ち兵ゴの吟味の写を今暫く展の神ゴと面
の刎よてんじくを内は宝の道義と「々スヤ先例より伝ろる義式ごと
どいても「神ち能礼を交張いびゴ正巫のむと仕て動る神祇若無いを猫正
う胸よる「ハテ ご廣い猫中ぎ申ヌア「猿と人とん遠へ「ちいっさ四ろ
眼じやるれとろやさる兵法者きゆゴ両を仕て眼をふさぐきろとやーめ
「ハ ト法蔵師ふとる法者を四ろ軍八代内ろ「眼へを申させろ文ちふ「ユリヤ
「ハイ「慮言をやさあといつさう遠ゴさでよあゴのお遠ゴさ「サアそれハ
の弘法も筆の誤りでゴる申「仏名法の口と関させたのゴゴる
しめい「ハ捕さ ト軍八とおさ人に「ユリヤモウ変ゴと「ヒ乗へ
大箱ゴさ法ちうとのをきようユイと考を出さけてる文ちゴ乗て「これハ一寸
文お組織遠殺しけをの内「遠き月と光へ「ハ ト乗へつ〳〵とゆて
取逃ゴとろと五さ文を五さゴり和ぶ兵へる「丁人ユリヤ宿前地獄耳しゴやと
いゴさゴいよ〳〵ちゴ「サアそれしゴ「ちゴ猿へ猿ゴ成ても表柳ゴ家ふ
吾れが「コイナアうと「ヒ「ヒ附ハ乗ても法金の弐百両とろねば関ゴゴり
同前「ヒ金子勿共ゴ呉ふト「ちゴ生ゴ「ア「ヒ乗ゴ
へて「アイヤ又ゴの呉し山吹の生ゴ廓でゴ乗ゴと折ゴゴゴ「ト乗ゴ
小判出る文ゴあゴめて「金さ人ゴれゴ云ゴ「ゴゴゴ「云ゴゴゴ「ハ ゴゴ
ト文ゴゴゴ ミテこゴゴ「ゴゴゴゴゴゴ「ハ ゴゴ
「ミテ悪ゴ郎ゴ居ゴゴゴゴゴゴゴゴ「ハ ト「ゴ
お組織ハ「悪ゴ郎ゴ申ゴ人ユリヤ元迷ゴゴゴゴ「ゴゴゴ
ゴる「御上仕ゴゴゴゴゴゴ「五ゴ文ゴ決ゴゴ「ハ ト「ゴゴゴゴゴゴ

[illegible]
三人とも
せめて人よりの心ようなく近食ひあてゝふ着てト[illegible]
三ツの猿よりもきゝらぎるゝて[illegible]
上位いづれも楽間すづお入行まとせふト[illegible]
更へ[illegible]
右京申のゝへゝさの多るを[illegible]
[illegible]角ゝゝゝ[illegible]物と[illegible]
弟の上ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ[illegible]
[illegible]ゝ外ゝふい跡の捌きゝ[illegible]
のゝんぬ間ふ三人ゝゝゝゝ合点ゝゝゝゝト三人[illegible]
[illegible]
のゝトゝ[illegible]

[illegible]
せふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

戸とをたてきりとをとる義の戸をあけ
義に対して表義に対して義に対して義に対して義に対して義に対して
義に対して義に対して義に対して義に対して義に対して義に対して
義に対して義に対して義に対して義に対して義に対して義に対して
義に対して

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゑ却いとゝやのふ「さの〻屋宅ふもムうきせぬがどふゆうとゝゑ
れるがそれゝゝ今のゆう「イヤ守ゝゝ育ぐゑん物といぐうそふそれ
ト家ぶの妖と申ゆゝゝ「ヤアこれも「妻年毛でよあどど返事ゝ亜ゑ「ゑそゝん
ゆゝ「ゆひ四ゑ妖れば色和ふ妖ゝゆまぬゆう半ゝゝ二人「カアふさゆ反
実へふゝゝ共境ゑあひゆせふト伝ゝ
「コレ嶋平ゝゆふゝの浪ゆゝゝゑゝ人ゑふゝゝれて今の難家ゝゆゝゝ
呼つてなゝんゆゝト侍へ「平小ゆゝゝゑん退つゆゝゝゑトゑ屋とつた逆
萩の戸台が面おゆゝれゝ今のゆゝゝゝ「又ゝゝどゝゆゝゝゝゝの同じ
座ゆふ面ゆゝもいつゆゝゝゝと詞ゆゝゝゝゝ何やゝゆいゝゝゑ事ゝゝん
妖ゝふゝゝて〻島平〻〻コレ島平いのふ「どふゆゝて合点の行ぬお座
ゝゝ座縛〻迫つて萩の戸台ふゝゝゆゝト「ゝゝゝて縛ゆ口〻〻「コレ嶋平〻

島平いのふはゝと何の事じゆゝのふ人ゑだつゝゝ気ゆせゝゆ〻自も
ついて面ゝト行ゆゝゝゝゝ「中おゆ姫台紀殿台がおゆふされてゝゝゝゆゝ
サア〻〻おゝ〻〻拵ゝゆゝ「イヤ〻自ゝ「ハテ戸お城拵ゝゆゝゝゝゝト戸の
あゝトゑ屋とゆゝふつゝゝてゝ入おゝゝゝゝゝゝ萩のゝゝ出「耳四源吾ゑ清「ゝふゝゝ「上
仕ゝ風て入迎ゝふトゑゝゝゝゝゝゝ

村澤矢車
浅尾工藤門

吉川の奥方
萩の戸
中村
三光

川が妻とあく色欲よおぼれ父御の供と晴とみと図ふ御所ねへムゝあの子
見さげ果さむ人じゃ方「源五兵衛尉も尼子の浪國の供と見べきあ吉
川の紋へ入迎色でまうけて蔵人がとゝ」妻よ御妻と侍るも同節と
見金供と晴さんゑの紋ひ園の更と見ゑ付ても幼ひで別まさ見上陸人れ後
類も幼ゝべ育家も吉ゝ泥父上のうゝのまう八兄弟ゲ逆う遠名系合遣撥の
吉ゝ二重鶴のかゝゞも今ゝ篭と中くよ無念と思ぶも女のえうあさ世年
月のゆうせふゝと源五兵衛推量ゝてゝもいのふトゝ「ゆて晴ゝ侍心知
と字の上ハ若君のみ面と易ゝ「只弟諸共年月の念願「子ゝれをゆう
其ゆゝト破ナ子いろれかざり破ナ子もトゝる子とうゝきうふとれべたるど
きうとこゞう矢「いつゝトきうゝ源ゝゝ物と「コレとふえゆゝゆゝれのえこゝさ
いうれトゝ「スリヤ一ノ谷ゆゝ味方の伏勢「ゝゝ物ゝゝ宵館と討ゝるゝゝ

「スリヤゝゞうも「一の宮へ早ゝれ「ゝゝ物ゝトはうゝゝと花ゝへ行兵衛尉源エイ
ゝゝ物ゝこれい「ゆうれでゝゝ尼子の姫居ゝれト義の戸ゝゝ「源五兵衛尉
さゝゞトゝ入兵庫の戸ひゝゝあゝてえのせゝじゆゝのへえ入ゝ物ゝゝ方ゝゝ
ゝゝ出ゝゝ「今のゝ場ゝくゝ人屋ゝう「ハウ「コリヤトゝ「スリヤばつうけて
「ゝふゆけ「ハウトゝ平ゝゝゝゝ入ゝ指ゝ行ゝ人ゝ遣ゝ左「もゝゝ吉ゝ神義の
刎限「ハアトゝ上ト照ゝ帝白むくゝゝ上トゝて出ゝ行ゝゝゝゝゝ左ゝくゝゝ色
ゝゝ出ゝ二人がゝゝ出ゝゝゝゝ「ゝゝゝゝ「ゝゝゝゝ「ゝゝゝゝ「ゝゝゝゝ
トゝ宜源吾ゝふゝゝ出ゝ「ゝ「ゝゝゝゝ「ゝゝゝゝ「ゝゝゝゝ「ゝゝゝゝ
ゝ行弥陀佛トゝ「ゝ「ゝゝ人ゝゝゝ「ゝゝゝゝ「ゝゝゝゝ「ゝゝゝゝ
ゝゝ肉狀子の切腹ゝ兵がゝゝゝトゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
行ゝ「ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ト主猪正主
年とうし色

「今朝よりそこ御退屋よりあふ御呂今たりかめるかゝ
さ今昔く御着免トさりませふ」「例年の拾ふよりてまり」「而たとさくぶり」
曲者拵よくも主猪正主よりつ曲者を追ぷ〜ひ裏ろよう迫う荒坊よ拾ふ八ゆ
さ「ヤア〜〜ト大びろ」「スリヤなもあこ人が紙の」「御勅使弁の宰相殿の」「スリヤ
此上役ち」「ナンコウ笑者」「そ殺られこうつそ」ト切てうる主ぬ
係
「うさぐ者ト」「強く者〜ふせ上役よ遠ひいあい」「拘こてち」「毛利
よ仇ある尼子の一族命限りよ切掖あ〜べ摑ふ」「ヱさ」ト
あて主係者と振切りやく付出て
きりて出ぬへく面ぬふ〜ふ主係をおー」「島平帰つこう」「八」「ミテ曲
者ち」「御埜ト」「大ま先ぞ〜さぐ」「ーても風と喰ふてふけつこう」「あ
ぐうあてあぐ〜こうかいれふ紀ど番ま」「と拾へ捕ま」「ーを右の拾子と御
主金と主帰る出合政同中間のふせ上役奴めが中張よ御布小おあて」「ぐ〜主

ト主こさぶ
きりて
「若上井でぐう弁ぬ吐ぬ而じやお念佛でもこつ化出せ」「大切ふ
科人疵付ぬよふあよかう先ふれ」「八」「ふ」ト主方の主係音もか
操頭の下いを小入こう」「御利ま小入てもムふ〜べ毛利の家國治りの武
と」「こう武ち某よ小吹笠陸ぬでふ御祝子中を衣服と陸め御勅使の
食事」「ハウ」ト西人主入主ぬ
上ふれナせふ小宝薬おあ多」「アイ」ト中ぬ方とんて歩る」「コレサ〜」「お敬とあふ」「ア〜
ト志ぐ時平と主ふ」「サア〜」「おあいと」「ナせふ」ト国出ぬ主ぬ
て主係服ざ〜めつて」「あを〜」「あぶふいつちい接主」と」「おて歩るふ」ト出抵と
小宝のろ〜あつて
「是いまろうぐふ〜さ変者」ト「ぐ主の仏ー」「ーたぬ出」「中上井る」「おい
ぐいい変ドや」「ハウ」「羽衣の巻紙と門」「主追付出ーナさ布まつ〜働化
捕まなぐんで主へ歩る多小御加勝と主ひ上井ろト」「ひまて引」「スリヤ」「羽衣
返ー主入

の盗賊時平〳〵ハツト立直り源吾よ服装の盗賊門番へ付出〳〵と
あまたいく働なもてあつかひとの知せあの者でもなえないさ方と急ぎすつく
服装とうぞひ返さ立帰る時ハヤミテあの面者ら源吾ぐ捜べ者ろふい
さ方ハ服装の盗賊と時〳〵べ御門番へ急げ〳〵時ハ捜めて三度すかせ
ふト走り引ふげ源吾ぞ出ハ廣見へぼい出かこあられハアあゆ
こーゆふト走人ふり志い〳〵ぐ〳〵へよ時平ぐ懐象走り探べよいが
ト走人ふり志ぐ〳〵へよ時平ぐ懐象走り探べよいが
時ちふ〳〵ゆ〳〵ふ〳〵氏内左京〳〵ま神祇延引のゆ狩ハ服装の盗賊探ぞの
あ〳〵ゆ〳〵ふ〳〵氏内左京〳〵ま神祇延引のゆ狩ハ服装の盗賊探ぞの
あ〳〵ゆ〳〵ふ〳〵氏内左京〳〵ま神祇延引のゆ狩ハ服装の盗賊探ぞの
下二ホと若上ゆせふ間今皆〳〵の御用捜とこい探ひまり狩ゆーに
下二ホと若上ゆせふ間今皆〳〵の御用捜とこい探ひまり狩ゆーに
下二ホと若上ゆせふ間今皆〳〵の御用捜とこい探ひまり狩ゆーに
出〳〵只今の曲者かゆめ取ゆて〳〵出〳〵ト行ぞ〳〵て時平服装の
出〳〵只今の曲者かゆめ取ゆて〳〵出〳〵ト行ぞ〳〵て時平服装の
出〳〵只今の曲者かゆめ取ゆて〳〵出〳〵ト行ぞ〳〵て時平服装の
ぞと時左時平立直つら〳〵ミテ服装ハ〳〵お脱びふされゆせ盗賊めとら〳〵
ぞと時左時平立直つら〳〵ミテ服装ハ〳〵お脱びふされゆせ盗賊めとら〳〵
ぞと時左時平立直つら〳〵ミテ服装ハ〳〵お脱びふされゆせ盗賊めとら〳〵
へ行の若もふ〳〵服装とぞひ返さ〳〵ゆて〳〵ふ〳〵ト主従の面〳〵ミテ盗賊ら

いぐ〳〵ふ〳〵と時源ら組子ゆまらせ先手ぞ組ぐ大ゆと急ぐ立帰〳〵ゆ
いぐ〳〵ふ〳〵と時源ら組子ゆまらせ先手ぞ組ぐ大ゆと急ぐ立帰〳〵ゆ
てゆ〳〵ふ〳〵ふる〳〵出〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふた糸後きあ〳〵よわらびと生ふされい〳〵島
平出〳〵ふ〳〵武士ゆ取立〳〵若ふぞよ〳〵ふぐ〳〵ふぐ〳〵ふ〳〵ト主従ふ〳〵
ふ〳〵〳〵時左郎後服装と投ゆお動仕ゆ若上ゆ〳〵ト若と探ゆ〳〵ふ〳〵
ゆ〳〵此内の服装い〳〵行と〳〵ふ〳〵〳〵時〳〵ぐ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ

そうして「ホヲそれてそへ先達てよう弥兵へ」る探頭の下ナつさ夜ホ分弥兵
衛る天の服装そちを又出さん為ム奴ぬとも盗賊とよりらへそちふ云付
葉返さ世い花きとさぶ〜ん今家が斗暗コヤそちが盗んだ服装をナ問ケいち
ゆせ物「ヤアスリヤトぎちつ〜てムウとこあるゆ者「家ま通れぬ白状〜
「くヤちぶぬ世ゆ平ちそ人ぬ兄の下郎ふ遣いろぬ「そふい云さぬ時お達
拠ち探頭の下弥兵の折う〜宝蔵ま落ちあさ」これ世密出ト蛸と名も
たう〜とた子の性名「密出とちもて生れ付て無筆の下郎「イヤサ
汝が名ちう落せ〜密出伊賀流の御出と書く毛利の紋へ忍び入探頭の
下とうぶひ云れたとの文云経験の拵の世密出とおっせ」ぬ〜ぶく無筆
ふぬてそう〜んとも思っく〜通れぬの下ぶやナちぶ白状せん「イヤそ
の密出ん云えぬい存ぜぬちぬ「通ちなっぶべそちと同役の料人ト呼ん

の内「家来の曲者それへすりてぬ者ちぶナ三人ま探頭の
「ヤアそちち妹「世ちりと達拠ま松江姫と名乗て毛利とちちる
いひ合せと城と思ひ員とちぶ三人の縄付と夫達て助るのくあ〜ぶ味
方と思ひ先達て盗ちと探頭の下と員ふ浪〜ふ世場とを返と云
〜でふいう「ヤアそれハ「いつ〜ぬて見分と云せ」もそちが和心と人出
さん為又合点ぶ行ぶバ難儀た左ちと見へ「ハア〜〜
「いうふも国法の武士あれば人の見知ぬと変いま上役と成て入世た子
の居下斗内添五郎と云の」いそ方と見出さん為誠ハ赤山殿の脇近仕行
成者左忠ちといふ者さ「こそ道ま成てそ子と彼の次普間のこうと今日
兵ふ思ひ知さう「世よちた子四郎「白状せぶ〜ば拷問ふうけあ一サ
ぶ〜ぶ〜ヤト語りける「ムウト後の子番兆して呉ち作兵衛泥蟲去て

越ちぶ戦場あとで旧名を名乗ずと思ひしふかく孤屋上に何と
ら色ん雲加高田の城主左子時名が時義丸改名して四郎を変名久
毛利が討ふこひ〜せ之の替腹まつさ天の羽衣い左子の童家を迎え
と思ふ一号更ふんあてかく孤屋へ運命のそる所ひ心切ぬい兄弟の
名乗合別寿と合せ〜二童舞の吉金係そちりんぢふて〜それとそい
低城き柳が世紀詰ト山内主馬助ようけ参り〜紀詰ち〜笑へかなるかトわあ柳
て〜コリヤ夕ア廊で名ぢき〜ちどまあ入聘多の辻堂〜世まりい狐の
うう〜ト柳よ〜又ち〜本ふそんも〜コリヤ兄弟は名乗をせん〜スリヤ柳が
妹の妹松江姫であさう〜うあろうう乗ふ廊狐の屋と打ていさそ〜ち
拍ち〜お前が兄分であさう〜いひう〜さま柳が現主紋の妹ち〜おひ
づけふい世場の名乗〜そふちふ〜現主の紋同士〜ホイトなるこの姫

たち乗こをが力てそふ〜ち
ぶ〜ちそ〜ちた乗〜をとぶ
〜まて〜お姫分コリヤ行逆人の御生害〜又ち分お西
ち〜ふされてトさりそせ人目と思んで時年といひう〜と二世の誓ひの睦言
もなぐ成約紋同士ぢも生てト孤ちた乗〜をまて〜と渡ち柳
〜まちこリヤ行逆〜初てあさ兄分あの孤ふちいち〜ん後ち周の仲ぢの
で世世でち係ちげてちトさんとさい巻と義利ちふ捨ち命〜周ちそも
同ちとちち人紋の血筋でも思ひ逆ぢ大変の城主ち〜で未まのちぎりが
乗ち〜そでんちお姫分〜まち柳ちの〜ぢふも思ひきれぬちちふア
〜きんぢうつぢさふあち〜ち乗ち有ちそちふれぢ心とちうて心と思ち悪き部
も左のあく子宝姫妹松江もあてさぢて事人〜南無阿弥陀仏〜ちち
そち逆ち〜ち紋左が兄へトちすふ〜三人左まちちん〜号〜照き部屋
今お果て家ぢち〜ち両人の女命と捨て思ふ安と地獄〜落ち〜号〜岡

尼子四郎太夫
義久
中村歌鳥
むさんやれ
魂の下の
ちりくず
立 芭蕉句
駒木根八郎
仁園仁蔵門

[illegible]

[illegible]

[illegible]